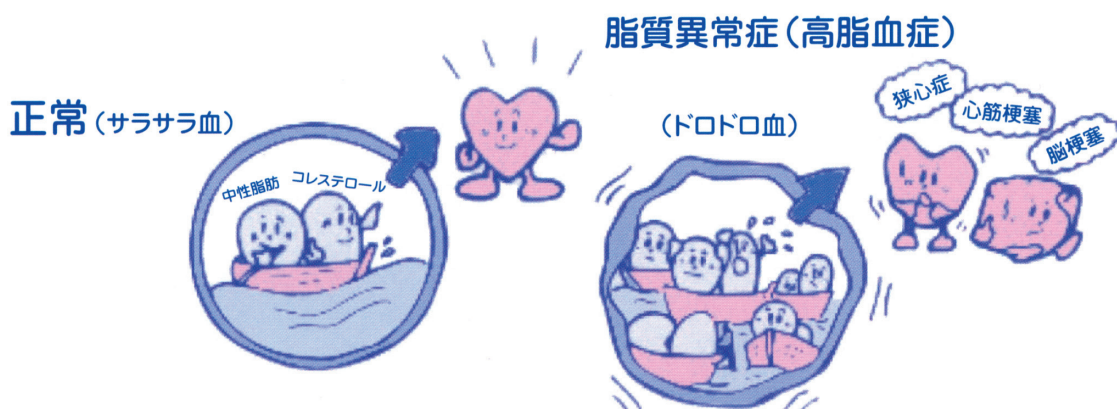


# 脂質異常症(高脂血症)の薬について

脂質異常(血液中にコレステロールや中性脂肪などの脂質が多くなる状態)が続くと、血管の壁に脂質が付着して動脈硬化の原因となり、心臓、脳、足などの血管がつまる病気(狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症)等を引き起こしやすくなります。

脂質異常症(高脂血症)の治療の基本は、食事療法と運動療法と日常生活の改善です。これで効果が不十分なとき、はじめて薬を服用することになりますが、このときも油断せず、食事療法などをおろそかにしないようにしましょう。



## 《薬はどのように効くの?》

効き方は薬によって異なりますが、①～④などの作用で、血液中のコレステロールや中性脂肪を下げます。

①肝臓でコレステロールが作られるのを抑えます。

肝臓でのコレステロールの量が低くなると、それを補うため血液中のコレステロールが取り込まれ、結果的に血液中のコレステロールが減ります。

②中性脂肪の分解を促したり、新しく作られるのを抑えます。

③腸管内で胆汁酸(胆汁性コレステロール)を吸着し、薬とともに排泄します。

胆汁酸が減ると、それを補うため血液中のコレステロールを原料として胆汁酸が作られるので、結果的に血液中のコレステロールが減ります。

④小腸でのコレステロールの吸収を抑えます。

## 《副作用は?》

アレルギー症状(発疹、かゆみなど)が現れたときは、服用を中止して受診してください。また、悪心、嘔吐、下痢、便秘、食欲不振などの消化器症状や、薬によっては脱力感や筋肉痛、褐色尿などの症状が現れることがあります。

これらの症状以外にも、薬を飲み始めて変わったことがありましたら、医師または薬剤師に相談してください。



お薬についてのお問い合わせ、ご相談は  
ご遠慮なく薬剤部へ